

令和6年度 第2回小林市総合教育会議要点録

- 1 日 時 令和7年2月10日（月） 16時00分～17時00分
- 2 場 所 小林市役所 本館3階 第3会議室
- 3 出席者 小林市長 宮原 義久
 教育長 大山 和彦
 教育委員 大部 蘭 智子、廣崎 真美、園田 貞哉、永井 良雄
 関係課 教育部長、学校教育課長、教育指導監
 事務局 総合政策部長、企画政策課長

4 内容

発言者	内 容 （要 旨）
事務局	（開会） 事務局から開会あいさつ
市長	（市長あいさつ） 小林市の教育行政にお力添えいただいている、教育長はじめ、教育委員の皆さんに感謝申し上げたい。 本日は、皆さんの忌憚のない意見をいただき、よりよい教育界になるよう意見交換をしていきたい。
学校教育課長	（議題） 議題 今後の学校のあり方について 資料に基づき、小林市教育みらい検討委員会から提出された提言書の内容、これまでの経緯、今後の構想や課題について説明
教育委員	・ 提言書の内容について賛成である。 ・ 地域に小学校が残るのはうれしく思う。 ・ 再編を進めていくに当たって、基準があった方がよいのではないか。 ・ 児童数が少ない学校については、ほかの小学校と合同で運動会や修学旅行をするとよいのではないか。 ・ 子どもたちのことを考えたときに、ある程度の規模の学校に通わせたいと思う。 ・ 多くの学校の校舎が老朽化しているので、修繕などの適切な対応を行い、教育の環境を整えてほしい。
市長	・ 小学校については、地元との密着度が中学校よりも強いので、ある程度のところまでは地元に残して、地域の方々に見守って育ててほしい。

	・ 中学校は3 学年しかないので、生徒数が少なくなるとやりたい部活動ができない状況になってしまうので、地域の皆さんに御理解をいただいて、やりたいことができる環境をつくりたい。 ・ 再編を検討するに当たって、財源確保についても検討する必要がある。
教育長	・ 今後、市民との意見交換会があるので、小中学校の現状と課題を踏まえ、現状維持した場合と再編した場合の双方のメリット・デメリットについて丁寧な説明をしていきたい。 ・ 方向性が決まり次第、早めに準備を行い、計画的に実施していきたい。
事務局	(閉会)